

国際シンポジウム「子どもの福祉と権利」 報告

『子どもの生命と権利を守るために』

榊原洋一（国際シンポジウム実行委員長、日本子ども学会理事長）



日本子ども学会の目的は、子どもに関するあらゆる課題について、専門領域を超えた人々が集い、英知を出し合って子どもの未来をより明るいものにする事です。

この目的に向かって、10年間の活動を続けてきましたが、メディア、環境、脳科学、文化など、これまでのテーマは子どもの生存と存在を所与のものとした上での課題であったと思います。

子どもの貧困や格差問題が大きな社会問題となる中で、日本は1994年に国連の子どもの権利条約を批准しています。しかし、その実現のための法整備は遅れ、2011年に親権などに関する民法の改正が行われ、現在大きな変革の時を迎えています。

今回、日本子ども学会の設立10周年記念して、子どもの存在そのものにかかわる「子どもの福祉と権利」をテーマとし、子ども学会の大きな柱である国際性を前面に出したシンポジウムが、10月14日に岡山市のベネッセコーポレーション本社大ホールで開催されました。

第10回子ども学会議が成功裏に終了し、まだその余韻がのこる雰囲気の中で、海外から3人、日本から1人の講師が、それぞれの専門とのかかわりの中で、子どもの権利について熱く語りました。

子どもの生育環境と発達についての第一人者であるアメリカのフリードマンさんは、子どもの幸福を保障する科学的根拠に基づいた政策の可能性について力説されました。

イギリスのドリスコルさんは、子どもの権利を専門とする法廷弁護士としての経験から、青少年の権利と責任のバランスの難しさを、多数の事例を挙げて述べられました。

日本を代表して、子どもの権利に関する法律の専門家である佐野弁護士から、日本における子どもの権利条約の実現に向けた努力と、それを阻む要因の存在について報告がなされました。

最後に、産業界がどのように子どもの権利擁護にかかわれるのか、オーストラリアの実業家でもあるストークさんから事例を交えて提案がなされました。

子どもの生存と権利にかかわる問題は、法律と大きくかかわり、これまで子ども学会ではなかなか踏み込めないで来た領域ですが、学会としてやるべきことがたくさんあることを実感させてくれた経験でした。学会としても、今後精力的に取り組んで行きたいと思います。



● 大会概要

日 時：2013年10月14日（月・祝）10:00～16:00

会 場：ベネッセコーポレーション本社 大ホール

主 催：日本子ども学会、チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）

協 賛：学校法人創志学園 環太平洋大学

後 援：株式会社ベネッセコーポレーション、ベネッセ教育総合研究所、
公益財団法人 福武教育文化振興財団

プログラム

10：30 開会式

10：15 基調講演 1

「子どもの福祉—科学とのつながりと断絶、子どもの権利の概念と政策研究」
サラ・フリードマン（ジョージワシントン大学／アメリカ）

11：10 基調講演 2

「青少年の“大人化” —英国における青少年の自己決定権と保護のバランス」
ジェニー・ドリスコル（ロンドン大学キングズカレッジ／イギリス）

13：00 基調講演 3

「日本における子どもの権利の現状と課題：弁護士としての視点から」
佐野みゆき（弁護士／日本）

13：55 基調講演 4

「産業界はどのように子どもの福祉と権利を守るか？」
ウォレン・ストゥーク（エクソンモービル社／オーストラリア）

14：50 総合討論

「子どもの福祉と権利」
サラ・フリードマン／ジェニー・ドリスコル／
佐野みゆき／ウォレン・ストゥーク
コーディネーター：榎原洋一（お茶の水女子大学大学院教授）

15：35 質疑応答、まとめ

15：55 閉会式